

つくし だより

2010年 5月号

NO. 239

〒156-0056 世田谷区八幡山3-33-1 林マンション202

TEL/FAX 03-3304-1108

東京都精神障害者家族会連合会

(通称 東京つくし会) 2010. 5. 15

「こころの健康政策構想会議」を傍聴して

都連理事 小笠原勝二

精神の病を抱える本人、家族（介護者）またそれらを支える精神科医および支援者などが、4月3日、松沢病院体育館に会し「こころの健康政策構想会議」の発足式が行われました。会議構成員は50名強（内20%は本人および家族）となり、また傍聴のみでも130人を超える方々が参集されました。

また長妻厚生労働大臣はじめ、山井政務官、事務次官など10名を超える厚生労働省関係者も参加されました。このような多くの参加者数は、この会議の目的およびその成果に寄せる期待の大きさを物語っています。

この会議の背景には、社会生活のしにくさを表すかのように、自殺者が年間3万人をこえるなど先進国で最悪の状況になっていることがあります。会議では、これらの引き金となっている「精神疾患」を国民の生命と健康を脅かす、がん、循環器疾患と同じく「三大疾患」と位置づけ、社会として取り組みが大幅に遅れている健康政策の改善を急務と考えています。

ここまでの経過では、まず昨年11月に開催された松沢病院130周年創立記念式典にて「精神科医療および精神保健・福祉の積極的推進の訴え（略称：七者懇松沢宣言）」が表明され、われわれ当事者にとって大きな勇気と希望を与えていただいたことがあります。続いて厚生労働省科学研究こころの健康科学研究（岡崎班）の事業で専門家と家族の共同作業として、昨年NPO法人世田谷さくら会が中心となり、東京つくし会も加わり実施した「早期発見・家族支援ニーズ調査」が大きなきっかけとなったと思います。

3月4日の調査報告会では、本人・家族の置かれている現状が社会に明らかにされ「2010・こころの健康・東京宣言」の表明がありました。この会議の目的は、国民のこころの健康の危機である現在、精神疾患はすべての国民に関係していることを明らかにし、これを三大疾患のひとつとして、いつでも、どこでも、良質のサービスを受けたいという国民のニーズに応える体制を抜本的に改革することにあります。

この目的達成のため、1) 国民の精神保健問題の予防・早期発見につながるセーフティネットの構築（精神保健改革）、2) 多職種からなるチーム医療をアウトリーチで届ける（精神医療改革）、3) 家族つまり介護者を地域社会でしっかりとささえる体制づくり（家族・介護者支援）などが検討されます。

5月末までに構想をまとめて、大臣に提言を提出するまで、集中的討議および作業が行われる予定です。これまで積極的に取り上げられてこなかった精神疾患を、国民のこころの健康の危機と捉えた画期的な背景および目的を持った会議は始まったばかりです。課題とする構想のまとめや提言が生かされ、政策までにたどり着くには多くの紆余曲折があるかと思われそうですが、ここは構成員を信頼し、小異を捨て大同につくように期待をこめ、応援が必要な時と感じます。われわれに身近な構成員としては、みんなねっと、東京つくし会および都連加盟の地域家族会・病院家族会からも参加しております。



平成21年度東京つくし会第三回東地域ブロック会議報告

都連理事 石川 和子

3月27日(土)午後、江戸川区勤労福祉会館にて「平成21年度東京つくし会第三回東地域ブロック会議が開催され、全17単会のうち出席10単会20名が出席、今回の協力区である江戸川かたくりの会藤岡会長の司会で会は進められ、長時間にわたり、各単会の日頃の活動や課題の報告、活発な意見交換がされました。詳細は「都連ニュース4月号」に徳山理事が報告しています。

1. 各単会の活動報告

講演会・高森先生の家族 SST・地域の福祉祭りなどイベントへの参加・区と提携しての家族教室・施設見学会・野外レクリエーション・父親懇親会・家族懇談会・会報発行・施設のバザーの協力

2. 各単会の課題

会員の高齢化で例会の出席者が減って会長も出席出来なくなっている。会員が増えない。家族相談の内容が多様化しているので対応できる相談員の養成が必要である。会員の中で統合失調症だけでなく、発達障害や糖尿病もあるので、入院できず主治医もお手上げで母親は疲れきって憔悴している。なので良い手立てはないか。家族会と作業所運営との関係について教えて欲しい。当事者も家族も入院している状況がある。一日も早い早期支援と家族支援を望む。家族へのタイムリーな情報提供が必要。家族会で常時使える部屋がない。ケアホームを是非設立したいが実現には困難が多い。

3. 区及び都への要望活動

区内の家族会がまとまり、他障害団体と連携して要望書を出している。心身障害者福祉手当については3年連続して出している。東京つくし会として陳情書を出したが不採択になった。これからどうすればよいか。ここで諦めずに続けて要望していったらどうか。区独自に出している区市もある。精神科以外の受診についても他障害と同じように無料にするよう要望を出して欲しい。

4. アンケートに基づくテーマについての自由発言

①発達障害の特性の理解と対応について

②親なきあとの当事者が今どうしているか、どのような体制が望ましいか。

③ブロック間の情報交換、合同報告について

以上3テーマについて活発な意見交換がされました。なお時間の都合で「ひきこもり対策について」と「早期支援について」は次回に話し合う事になりました。

5. 平成22年度東地域ブロック会議について

1) 年3回開催する

2) 各単会の出席者は2人に限定しない

3) 第1回目： 協力…足立区ひだまりの会

日時…平成22年7月3日(土)

場所…足立区「西新井ギャラクシティ」

4) 第2回目： 協力…江東区あかつき会

日時…11月頃、詳細は次回決める

～江戸川かたくりの会の皆様、ご協力ありがとうございました～



第19回 日本精神保健福祉政策学会・学術大会に参加して

都連理事 小川順子

日時：2010年3月13日（土）午前10時～午後5時

会場 明治大学駿河台校舎リバティタワー

メインテーマ「精神障害者とディーセントワーク」に引き寄せられての参加でした。精神医療や福祉関係者、行政や企業関係者など幅広い層が一堂に集まり、熱気にあふれる集会でした。

第Ⅰ部

1.ドキュメンタリ映画「しごとのいみー病気とほのぼの屋と僕たちの未来～」上映。

25歳の青年が、支えあえる妻と愛する子供、「ほのぼの屋」という名の通り理解あるオーナーと仲間たちがいる職場での体験を通して、仕事の意味と未来に希望を持てるように成長していく様が描かれ感動しました

2.学術大会会長、藤井克徳氏の講演「精神障害者とディーセントワーク」

第Ⅱ部

1.「英国における自殺対策に見るわが国の課題」伊勢田堯先生（代々木病院）

2.「はたらく」ことの最近の精神健康動向一街の診療所から見てー

岩田俊（はたがやメンタルクリニック所長）

過労などわが国の非常事態労働条件の実態の報告があり、眠り、食事、ゆとりを持ち「はたらく」を喜びにと語られた。

第Ⅲ部

シンポジウム形式で討論が行われ、働く現場から（社会就労センターパイ焼き窯）のユーザーや支援者などが出演されました。

以上の通り 3部構成で精神障害者の労働問題が論議されました。私達の知らないところで精神障害者の政策面についてもう19回も話し合われていることを知り感動しました。

ディーセントワークというのは「人間らしい労働」とか「尊厳のある働き方」と訳されていますが、このことから1番遠い所に立たされているのは障害者でしょう。

働くという根源的な営みからは①賃金によって生活経済基盤が確立される、②自己実現や生きがいを得る、③社会との連帯が与えられる。しかし、奪われると人間の尊厳が削られ生活者として最低条件が満たされないことになる。「障害」を具体的な言葉で表現すると失ったものに愕然となります。

障害者には、授産施設や小規模作業所など福祉的就労の場で働く人々はいますが、障害の無い人との賃金水準は比較にならない程低いものです。欧米と比べると障害分野一般では20～30年の遅れ、働く分野ではその比ではないとのことです。

そんな中であって国の内外で新たな動きが芽生えています。ILO（国際労働機関）から「ディーセントワーク」という視点から障害者の労働のあり方が厳しく問われ、2008年5月に発効をみた障害者権利条約にあって新たな方向が示されています。ハードルの高さを思うときに改めて「今後に向けて宜しくお願い致します」という気持ちでいっぱいです。



平成22年度東京つくし会上半期講演会のご案内

都連副会長 真壁 博美

介護者が、何の支援も無しに介護し続けるならば、自らも身体的・精神的な疾患を抱え、介護の継続が危うくなります。追いつめられた介護者が、要介護者を虐待したり、自殺することもあります。

介護者は仕事との両立がむずかしくなり、経済的にも困窮し、社会からも孤立してしまいます。そのようなことにならないように、介護者支援の制度の充実が国際的に広がりつつあります。日本の現実だけを見ているとなかなか展望が開けません。世界はどのような取り組みをしているのかを研究されている三富先生のお話をうかがい、これからの日本がどうあるべきかを一緒に考えていきたいと思えます。多くの皆様の参加をお願いします。

日時：2010年6月11日（金）13：30～16：00

場所：世田谷区烏山区民センター 集会室

内容：家族支援のあり方を考える

講師：三富紀敬（みとみ きよし）氏

（静岡大学人文学部教授・英国介護者協会会員）



◇ 平成22年度 賛助会加入状況 (H22年4月30日現在)

個人	奥山 和夫	6,000円(3口)
	匿名	5,000円(2.5口)
診療所	勝どき二丁目クリニック	3,000円(1口)
平成22年4月1日～平成22年4月30日までの累計：14,000円 (個人1口:2,000円、団体1口:5,000円、診療所1口:3,000円、病院1口:5,000円)		
個人：	5.5口 × 2,000円 = 11,000円	
診療所：	1口 × 3,000円 = 3,000円	

*ご協力ありがとうございました。



東京つくし会のホームページについて

東京つくし会のホームページを開設して約1ヶ月が経過しました。検索欄に「東京つくし会」または「東京都精神障害者家族会連合会」と入力し検索を行うとヒットしますので、ぜひサイトの閲覧をお願いいたします。なお更新は最低でも毎月1回、15日前後を予定しております。今後とも皆様のご愛顧をお願いいたします。



編集後記…「立川麦の会」では今年度より、当事者・家族が農業体験をすることになりました。畑で土に触れ、作物を育て、収穫する喜びを体験してほしい。

気のおけない仲間・家族とともに開放的な気分を味わってほしい。体力をつけて生き甲斐もてる活動に結びついてほしいという願いを込めています。砂川地域の農家の協力を得て実現しました。3月下旬に桑の苗植えをしました。5月にはサツマイモも植えます。梅の実をとって、梅ジャムや、梅ジュースを作ろうと今からワクワクしています。

（都連理事 真壁 博美）